

2019 日独青少年指導者セミナー



A2団 子どもと若者の貧困 — 課題と解決に向けた取り組み

今回の訪問先

- ベルリン日独センター
- ドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関(IJAB)
- マクデブルク・シュテンダール専門大学
- 同権福祉連合会ザクセン・アンハルト州北部支部
- シュテンダール市
- 統合保育園 クンターブント
- 労働者福祉団AWOベルリン支部
- ベルリン若者職業センターJBA
- アルブレヒト＝フォン＝グレーフェ中等教育学校
- SPI財団
- 宝島サーカス
- ベルリン・フリードリヒスハイン＝クロイツベルク区役所青少年局

本日皆さんにお話しすること

日本の現状と課題

ドイツの現場で気づいたこと

日本に持ち帰り、取り組みに反映させたいこと

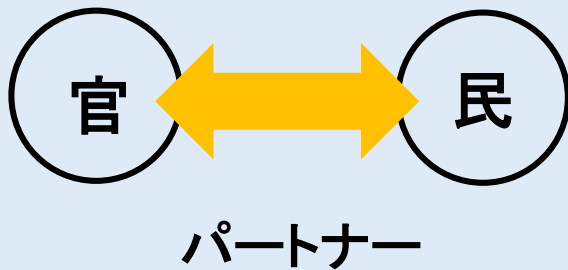
日本の現状と課題

- ① 日本の子どもの貧困の実態
貧困の状態にある17歳以下の子どもの割合は**13.9%**
(出典)厚生労働省「平成28年 国民生活基礎調査の概況」
- ② 縦割り型行政の弊害
教育行政・福祉行政・労働行政
- ③ 学校中心社会の限界

官と民の関係性

ドイツの場合

- ・多様なニーズへの対応
- ・民から官への働きかけ

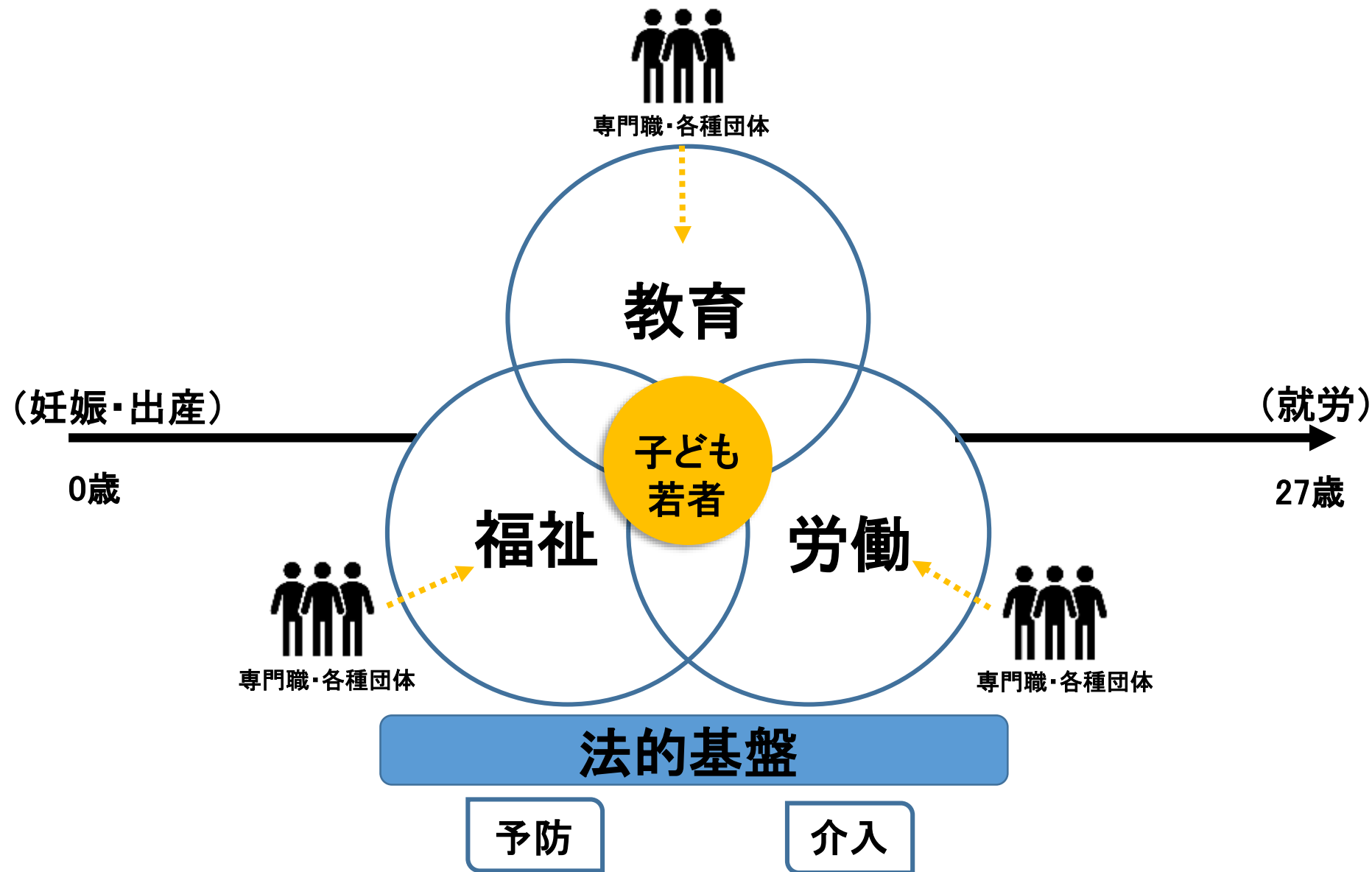


日本の場合

- ・全国に同様のサービスが普及
- ・現場の声が反映されにくい
- ・ボランティアへの依存



多様な専門職による包括的支援



届きにくい人にどう届けるか ～ターゲット型支援の視点～

① (見えにくい) 貧困の発見

貧困を恥と感じ、隠そうとする感覚は日独共通

② アウトリーチ ～出向く支援～

アウトリーチ型SW(ストリートワーク)

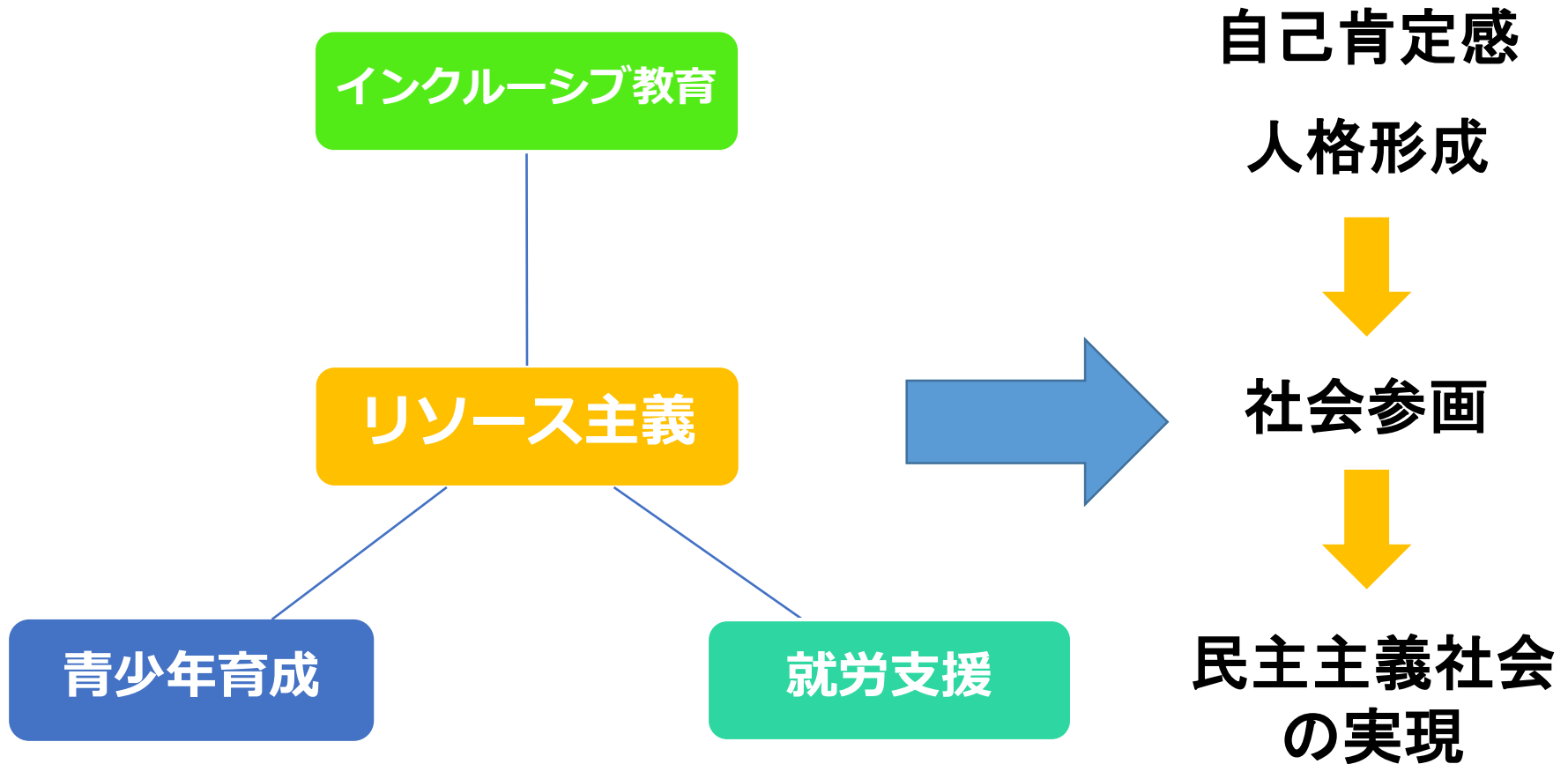
③ 地域コミュニティの資源活用

地元のお母さん事業(移民の背景を持つ母親同士のピアサポート)

④ 情報伝達

多言語・分かりやすい言葉でのフライヤーの作成

全ての子ども・若者の育ちを 支えるアプローチ



訪問先事例: 統合保育園クンターブント、若者文化センターブンペ、
アルブレヒト＝フォン＝グレーフェ中等教育学校、宝島サーカス

学校における青少年支援

① 特色あるカリキュラム

州ごとに教育制度を決められる → 労作教育

② 校内の役割分担

教員 → 教科教育

教員以外の専門職員（SSW・保育士等） → 人格形成・福祉

仕事への移行支援

- ① 学校から仕事への移行において「資格」(学校卒業資格および職業資格)が重要である社会
- ② 若者の貧困リスクを減らす上で資格取得支援を重視
- ③ ワンストップ型支援の構築
 - 「ジグザグ型移行」をする若者にマッチ

日本に持ち帰り、取り組みに反映させたいこと

縦割り型行政の弊害への対応

- 官と民のパートナーシップ
- 民の声を反映させる土台作り
- 包括的支援制度(ワンストップ型支援)の拡充

学校中心社会の限界への対応

- SSWの常駐
- 青少年育成に関わる専門職員の配置
- 社会参画を通じた民主主義社会における主体の形成

予防



介入



貧困の有無に関わらず
全ての子ども・若者が
排除されない社会づくり

たくさんのご協力を頂きました！ ありがとうございます！

- 連邦家庭高齢者女性青少年省
- 文部科学省
- 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
- ベルリン日独センター
- ドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関(イヤップ)
- マクデブルク・シュテンダール専門大学
- 同権福祉連合会ザクセン・アンハルト州北部支部
- シュテンダール市
- 総合保育園 クンターブント
- 労働者福祉団 AWO ベルリン支部
- ベルリン若者職業センター JBA
- アルブレヒト＝フォン＝グレーフェ中等教育学校
- SPI財団
- 宝島サーカス
- ベルリン・フリードリヒスハイン＝クロイツベルク区役所青少年局
- 今年度・過年度ドイツ団員
- ホストファミリー